

石井っ子だより

平成28年11月2日発行

11月号

発行責任者 紺野 宗作

石井っ子発表会ありがとうございました！



このたびは石井っ子発表会においでいただきありがとうございました。そして、自分のお子さんの発表だけでなく、最後の6年生の発表までたくさんの方にご覧いただき本当にありがとうございました。

学校では、この石井っ子発表会を通じて、子どもたちの個性をどう伸ばし、どう成長させていくかという視点を持って取り組んできました。そして、我々教職員も子どもと一体となって発表を作り上げる過程を大切にし、子どもたちが主体的に取り組むことを目標にし各学年でスローガンを決めました。また、全校合唱「ベストフレンド」も選曲から児童会に任せ、すこし難しい曲でしたが、児童会が中心となって朝練などを積み重ね子どもたち自身で作っていました。お陰で今年の発表は昨年に増して子どもたちの意欲や表現力が高まり自信に満ちていたような気がします。この自信をこれからの学校生活にいかし、活気ある石井小学校にしていきたいと思えます。

子どもは群れて育つ・・・集団遊び

私は、休み時間や昼休みに校庭で元気に遊ぶ姿が少ないのがとても気になっています。学校は遊びより勉強が大切だと思うかもしれませんが、そうではありません。子どもの遊びは、「人間関係を学ぶ」という観点から発達には欠かせないものです。それも自由な中での集団での遊びが重要です。子どもは、遊びの中で多くの他者とのかかわりを通して様々なトラブルを乗り越えながら人間関係を学んでいくからです。固定的な2～3人のグループだけで遊ぶことに慣れてしまい、集団での遊びの時間や体験が十分に与えられないまま成長してしまうと、他者と関わることの楽しさを感じず人間関係を煩わしいと思う大人になってしまいます。将来たくましく生きていくために最も大切なことは、様々な他者とうまく関係を築いていく力だと思います。

今はサッカーで遊んでいる子が多いです。遊んでいる様子を眺めていると、早く出てきた子どもが順番にチームを作っていきます。ある程度人が集まって来ると自然とルールを子ども同士で確認し合います。ここで「校長先生も混ざって」と声がかかることがあります。(ただの人数合わせです) 私は、少し弱いと感じられるチームに混ざってと指定されます。しかし、「校長先生が入ると強くなるからダメ。」という声も聞こえます。反対に「校長先生なんだから本気でやるわけないじゃん。」という声も聞こえます。こんなふうにして友だちと折り合いをつけながらルール(約束)を確認しながら自分達で楽しめるようにするのです。そんな遊びを継続することによって、だんだんと社会的規範に従う能力が発達していくわけです。

先日、子ども達がサッカーをして遊んでいたときの事です。A君は、少々運動が不得意な子です。サッカーでは守りを中心に動いていたようですが、なかなかボールには触れることができません。しかし、A君はサッカーが上手なB君のシュートを、体を張ってナイスディフェンスで防いだのです。このプレイには、敵味方関係なく「A君、すごい。ナイスプレイ！」一斉に声がかかりました。その時のA君のうれしそうな顔たらありません。A君は満面の笑みを浮かべながら、またボールを追って行きました。このシーンを見て私は、子どもが遊びの中で得る最大のものは「自己肯定感」であることを再認識しました。人間とは弱いもので、人から肯定してもらふ経験がなければ自分を肯定できません。そう言った意味で遊びの中で自然と友だちから肯定される経験は何者にも代え難いのです。自己肯定感が低いと他者への否定する感情が強まり、仲間を尊重するという仲間意識が育ちません。子どもは群れて育つということを実感したシーンでもありました。

今、学校では、体力向上という観点から業間にマラソントイムを設定していますが、その他の業間や昼休みは子どもの自由裁量の時間として確保し元気よく遊ぶことを奨励しています。

「よく遊びよく学ぶ」

・・・そんな子どもにしていきたいです。



NOメディアチャレンジ週間・・・2回目へ

小学生のうちにメディア対策をしっかりしていかないと大変な世の中になると危機感を感じています。しかし、そのほとんどの問題が、学校では見えない部分であり、学校としても大きな悩みです。先月からPTA主催としてスタートした「NOメディア対策チャレンジ週間」には大きく期待するところです。第2回目が、11/7から始まります。ぜひ、このチャレンジ週間の取組がメディア対策に限らず、家読(うちどく)を通した家族団らんの確保につながることを願っています。